

安全キャラバン報告

航空安全委員会

平成17年9月10日、航空安全講習会との協力関係の下、航空安全委員会は、新橋航空会館に於いて小型機の安全を考える“航空安全キャラバン”を開催しました。

プログラム内容は以下の3点でした。

- 1、小型機操縦士の技量維持について 元首席試験官 桑原 基晃氏
- 2、GPSを使用した小型機の事故例について 事故調査官 楠原 利行氏
- 3、Contact Yokota APPと題した米軍横田基地管制官によるミーティング

当日は50人の会議室を準備致しましたが、それを超える数多くの受講者の方が出席され、室外立ち見の方も発生しご迷惑をお掛け致しました。

Contact Yokota APPのミーティングを実施するに当たっては、事前に安全委員による横田基地発刊のパンフレット、Mid-Air Collision Avoidanceの理解、基地周辺の問題点の検討を行い、併せて委員の資料による、横田基地周辺を飛行する場合の交信要領、そのタイトル“Contact Yokota APP”を作成しました。

ミーティングは米軍から管制官、Pilot、操縦教官及び広報担当者のトータル5名の方に参加ご協力を頂きました。

予め受講者の方々に提出して頂いた事前アンケート^(※1)の分析結果を米軍側に伝え、この内容を踏まえたスタイルでのミーティングを実施して頂き、その後質疑応答へと移りました。

活発な質問もあり予定時間一杯を使ってミーティングは終了しました。

ミーティング終了後、懇親会を行いました。米軍スタッフ全員を含め数多くの方々に参加して頂きました。懇親会では先ず全員の英語若しくは日本語による自己紹介に始まり、管制官のニックネーム、コールサインを教えて頂いたこと等、終始友好的な雰囲気での交流を持てました。

日本航空機操縦士協会
航空安全委員会

講習会参加者の方々の協力により貴重なデータを頂きました。横田基地管制官と日本人パイロットとの適切なコミュニケーションを確立するため、安全委員会では現在有効な対策を考案しています。また、今回の講習会が今後の横田 AREA における安全運航に役立っていくことに期待しております。短い時間での質疑応答となりましたが、ご意見等ございましたら操縦士協会までお知らせ下さい。

(※1) 事前アンケート & 集計結果

横田 APP へのコンタクトについて

1、コンタクト時のプレッシャーについて

非常にある	多少ある	ほとんどない
30%	43%	27%

2、通信設定の実施の有無にかかわらず、過去に横田エリアにおいてニアミスを含め不安全要素につながる経験をされたことがある。

Yes	No
10%	90%

Yes とお答えになられた方にお聞きいたします。その頻度の傾向は近年どのようなようになったとお考えですか。

増加傾向である	以前と変わらない	減少傾向である
67%	33%	0%

3、横田 APP への通信設定について

積極的に実施している	必要に応じて実施している	ほとんど実施していない
47%	40%	13%

積極的、必要に応じてとお答えられた方にお聞きします。

コミュニケーション上の最大の障壁となっているものはネイティブスピーカーによる ATC であると考えられますが、特に通信設定時に不安全要素につながった事例がある方はその時の状況についてお聞かせ下さい。また、その対策について何かご意見をお持ちでしたら是非お聞かせ下さい。

- ・横田 APP に神経を集中させてしまうので見張りや機体操作がおろそかになってしまう。慣れる以外に対策はないと思うが、日本人相手なのでゆっくり話してほしい。
- ・横田管制の混雑状況においてはレーダーアドバイザリーを受けることが出来ないことがある。
- ・早口な管制官が少数ながらいる。
- ・特に不安というわけではないが、以前 FA200型機に乗っていた時に型式を聞かれ答えたが通じず何度かやり取りを行うこととなった。交信に対して定型的な形を取り入れることができないであろうか。
- ・機種等はスピードの判断に大切だと思うので横田側、パイロット側で何か統一した指針があってもいいのではないかな。
- ・問題はパイロット側からの聞き方だと考える。それが単純明快なら横田との交信も単純な内容となり混乱は生じない。整理が出来ていない状態でパイロットが交信を行うと管制官もそれに対し聞きなおす等のアクションを取るため、コミュニケーションが結果的に困難となる。

ほとんど実施されていない方にお聞きします。
通信設定なしで不安全要素が発生した経験がある。

Yes	No
25%	75%

Yes とお答えになられた方にお聞きします。その際の状況についてお聞かせ下さい。

- ・ニアミスと思える経験が2回あった。

4、今後の横田 APP との交信について何か良いアイデアをお持ちの方は是非お教え下さい。(例えば、WX 不良時における管制圏通過やダイバード時における良好なコミュニケーションを確立するための横田エリアに限定したローカルコミュニケーションやプロセジャー等)

- ・横田における管制する側として以下の3つについて教えてもらいたい。
 - 1、絶対に守らなければならないこと。
 - 2、出来る限り避けなければならないこと。
 - 3、こうすることが望ましいこと。
- ・自家用操縦士向けの簡単な横田管制用のガイド（用語集）がほしい。
- ・日本人（日本語）の管制官によるアドバイザリーを必要に応じて受けたい。
- ・Call Sign が JA で始まる場合は特にゆっくり話してもらおうと聞き取りやすい。

5、その他、ご意見等ございましたらお教え下さい。

- ・コンタクトの必要とそのプレッシャーを比較するとプレッシャーの方が大きい。その原因の1つに英語でのコミュニケーションがある。聞く力、話す力を身につけていきたいと考えているが何か良い教材等あれば紹介してもらいたい。
- ・自家用操縦士向けの ATC 講習会を実施してもらいたい。
- ・地上のフライトサービス局からコンタクトを試みるが通信設定ができない。何か方法があれば教えてもらいたい。

